

## スペイン 柑橘類は16年間で最低の収穫量を予測

[FreshFruitPortal](#) 2025年9月18日

スペイン農業漁業食料省(MAPA)が発表した年次柑橘類予測によると、2025年のオレンジ、レモン、グレープフルーツ及び小型(ソフト)柑橘類の生産量は過去16年間で最低となる見込みである。

同省は、全国を生産量を前年比10%減の544万トンと予測している。

スペインは欧州連合における最大の柑橘類生産国であり、世界では第6位に位置する。生産量の55%は輸出向けである。

この衝撃的な予測はバレンシア州の柑橘類業界に警戒を促している。同地域の生産量は8%減少すると見込まれている。

バレンシア農業者・青年農業者協会(AVA-ASAJA)は当局に対し、生産者支援と業界の損失補填を目的とした「マーシャル・プラン」(大規模経済支援策)の導入を要請した。

同協会は、業界の再活性化と生産者支援のための施策実施に向けて、政府からの資金提供を求めており、資金は農園の再構築の最適化、品種転換の促進、及び「ピニョラ」(pinyolà: 本来種無し品種に種子ができること)の解消に充てられるとしている。

資金はまた、放棄された果樹園の再生のほか、農業保険の改善、植物防疫用有効成分の認可の拡大、野生動物の管理、及び盗難対策等の補完的な施策にも活用されることとなる。

### 気候要因は問題の一部に過ぎない

AVA-ASAJAのクリストバル・アグアド会長は、収穫量の減少は主に春と夏の雹を伴う嵐やその他の悪天候によるものであるとしつつ、「これは既に長期的に続いている憂慮すべき下落傾向の一部である」と述べた。

同会長は、老朽化した果樹園、品種地図の不備、小規模な農地保有、耕作放棄等も深刻な要因であると指摘し、「これらの課題に対して十分な資金を投入することが必要であり、適切に対応すれば欧州市場における長期的なリーダーシップを強化できる」と強調した。

### バレンシア州オレンジ産業への打撃

バレンシア州農業局によると、2025/26年度の柑橘類収穫量は250万トン強と見込まれており、この数字は2024年に比べて8%減(21万7,126トン減)、2023年に比べて13%減となる。また、過去5カ年の平均との比較では17.9%減、過去10カ年平均との比較では23.2%減となる。

バレンシア柑橘類取引所によると、注文は例年より数週間早く始まり、農場出荷価格は前年同期比で同水準か、グレープフルーツと同様に前年同期比で最大25%高い場合もある。

高価格帯のマンダリン品種であるクレメヌールは、カステリオン県南部からバレンシア県北部にかけての雹害により特に供給不足が見込まれる。同品種は高い需要を誇るため、収穫量の少なさと相まって価格上昇を招くものと予想される。

皮肉なことに、灌漑と病害虫防除の必要性により生産コストが大幅に上昇しているため、この価格上昇が必ずしもクレメヌール生産者の利益に直結するとは限らない。

執筆者: カミラ・グティエレス